



観音埼灯台西600メートル 60メートルの台地に4,300平方メートルを占め 太平洋を一望に収めて建つ  
24メートルの高さをもって空に立ち昇り 南を指し示す大碑壁  
御霊に対する祈りと海の平和への願いが込められている

上空から見た戦没船員の碑  
北上空からの全景 正面は太平洋  
(昭和46年春 海上自衛隊第21航空群撮影)

# 戦没船員の碑

## 建立から50年の歩み

# 潮 騷

第 51 号  
令和 3 年  
8 月 1 日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会  
〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目五  
海軍センタービル  
電話 〇三・三三三・四〇六六二  
FAX 〇三・三三三・四〇六八二

昭和46年3月「戦没船員の碑」が財団法人戦没船員の碑建立会によって、建立されてから今年で50年。さきの大戦が終わってから76年になる。この大戦で資源のないわが国は、原油・鉄鉱石などの鉱物資源を求めて南方へ進出していった。それには、兵隊や武器・弾薬などの軍需物資と輸入物資を運ぶための大量輸送船隊と海上輸送路の確保が絶対条件で、海上輸送なくしては全く考えられなかった世界戦史に例が無い「海洋作戦」であった。そのため、商船はもとより漁船、木造船機帆船など、船と名のつくものは、その大半が徴用などによって戦争に参加した。

これら船舶は、海上輸送路の壊滅に血眼になっていたアメリカ軍（連合国）の熾烈な攻撃の中で、資源や兵站の海上輸送や監視の任に従事し、約7,200隻の商船、漁船、機帆船などが喪失し、6万余人の船員が尊い犠牲となった。

とくに20歳にも満たない、いたいけな年少船員の犠牲が多く、戦没船員の3割を超える、約2万人が戦没した。この背景には、船舶の急激な喪失と船員の犠牲をカバーするため、戦時特例によって、海員養成所、商船学校、高等商船学校などの修業年限を大幅に短縮し大量に船員養成が行われたことなどによる。

戦争が終わり、太平洋に眠る戦没船員の御霊を慰霊し顕彰するため



南端にすえられた水平の碑文石は、遠く望まれる太平洋の水平線と呼応して、海底深く眠る戦没・殉職船員の鎮魂を願う気持ちを象徴している。中央に名簿が奉安されている。

に、海運・水産業界や船員関係団体の努力により「戦没船員の碑」が建立された。

また、戦後の廃墟の中で、わが国の復興に大きな役割を果たした海運・水産業で不幸にして海難などで犠牲となった、すべての殉職船員と戦没船員の慰霊・顕彰を行うとともに、そのご遺族の援護にあたるために、昭和56年4月に財団法人日本殉職船員顕彰会が設立された。

終戦から76年、「戦没船員の碑」建立から50年の慰霊・顕彰の主な歩みを振り返りたい。

さきの大戦が終わっても、船員動員令にしばられていた船員に課せられたのは、海外に残された軍人、在留邦人合計約750万人(当時の日

### 戦後の帰還輸送

戦没船員の碑にある、神戸高等商船学校練習帆船・進徳丸の左舷錨。航海訓練所の所属となり昭和20年空襲を受け擱座。その後、汽船練習船に改装され昭和37年まで就航した。この間、世界に雄飛する幾多の船員を育てた。



本総人口の約10%の大移動計画で、遅滞なく輸送できるかおおいに懸念された。

戦後、日本の四面を囲む海は、米軍が投下した機雷で封鎖されており、浮遊機雷と沈置機雷が航行を脅かし、危険きわまりない航海の連続であった。

昭和20年9月2日、「興安丸」(7,079総トン)が南朝鮮から引揚げ者に乗せて仙崎に。また、太平洋方面からは9月24日、メレヨン島(東カロリン諸島)から1,700人を乗せて、別府に帰港した病院船「高砂丸」(9,347総トン)を第一船に帰還輸送が開始された。

しかし、わずか20隻の生き残り船船では間に合わず、艦艇120隻が参加したが足らず、アメリカから貸与された216隻、130万総トンの船舶に日本人船員が乗組み、驚くべき迅速さで帰還輸送を行った。昭和22年からは日本船だけで輸送を続け、25年にはソ連、中共地区を除いてほぼ完了した。

終戦から昭和23年末まで、触雷などによって沈没した船舶は49隻に及んだが、幸い帰還輸送船の被害は少なかった。

### 船員動員令の廃止

国家総動員法は昭和20年12月廃止されたにもかかわらず、船員は帰還



引揚げ輸送に従事した興安丸

輸送とその他国家的業務遂行の重大任務を負わされ、終戦から1年8ヶ月後の昭和22年3月、やっと船員動員令が廃止された。

戦争中は、護衛なき日本輸送船団に従事し、空から海からの容赦ない攻撃の恐怖にさらされ、膨大な犠牲を払い、戦後は帰還輸送の大事業を成し遂げやっとな開放された。

### 船員軽視の援護法 その改正に立ちあがる

昭和27年、戦争中の公務による戦傷病死者に対する国家補償として「戦傷病者戦没者遺族等援護法」が国会に上程されたが、船員の対象者は陸海軍の徴用船での戦没者に限られ、船舶運営会の徴用船員は適用除

外となっていた。遺族をはじめ関係者は、この理不尽な扱いに怒り、その見直しを求めて立ち上がった。

すでに昭和20年10月、わが国における戦後初めての労働組合として、全日本海員組合が結成され、全国各地に支部機関を設けて活躍していたので、海員組合が中心となり各地に遺族会を組織し、力を合わせて援護法の改正に取り組んだ。

その結果、約1年半におよぶ運動で昭和28年8月の第16回国会(特別会)で戦没した総ての船員遺族に対して、遡って法律が適用されることとなった。また、この運動をおして全国一本の戦没船員遺族会が結成されたが、事務を任う遺族の高齢化により平成20年5月解散した。



追悼式で白菊を手向け 鎮魂を願いお祈りする

## 「戦没船員の碑」の 建立まで

昭和12年から満8年にわたり、太平洋全域からインド洋にまで及んだ、さきの大戦が終わったとき、わが国の海運、水産界は、本土沿岸の制限海域にとじこめられて、暗澹たるものであった。

この戦争で、6万余人の船員が約7,200隻の船と運命をともにし、海運、水産界は、文字どおり壊滅状態におちいついた。

今日、わが国の商船、漁船が、またその船員が、世界屈指の海運、水産国の基盤となつて、祖国の繁栄に尽していることを思いあわせたとき、まことに感慨深いものがある。



鎌入れをされる南波佐間副会長  
(全日本海員組合組合長)

戦後失意の中にあつて、報われることなく海底に眠る船員の霊を慰さめ、本来平和産業の土である船員が、二度と戦火の海を航くことのないようにとの祈りをこめて、記念碑を建立する運動が、有志の間でいち早くはじめられたが、占領下の特殊事情はこれを許さず、20年余が空しく経過した。

しかし、この間に、目ざましい復興発展を続けた海運、水産界にあつて、戦没船員の慰霊と海洋永遠の平和を希求する人びとの願望が、次第に強い昂りをもつて抜がっていった。

昭和41年秋、財団法人海事広報協会が中心となつて、戦没した船員の記念碑建立の具体化を図ることになり、日本海事広報協会、日本船主協会、大日本水産会、全日本海員組合をはじめ海事関係官庁、団体によつて、「戦没船員慰霊顕彰碑建立準備委員会」が組織され、建立地の選定、碑の構想等、碑の建立に必要なことからを検討した結果、当時県立自然公園予定地として国の管理下にあった現在の「観音崎公園」を最適地として、ここに碑を建立することについて関係方面のご了解を得たため、碑の設計を吉村順三東京芸術大学教授に、群像の制作を同学菊池一雄教授に依頼するとともに、従来、慰霊碑、顕彰碑または記念碑と呼ばれていたこの碑を「戦没船員の碑」と呼ぶことにし、昭和41年1月23日「戦

没船員の碑建立会」を設立して、建立事業の具体化に踏み出した。

同44年7月20日「海の記念日」に、この建立会は、運輸大臣から「財団法人戦没船員の碑建立会」として法人設立を許可されたため、建立資金総額1億4千万円の募金を全国民に呼びかけるとともに、戦没船員の調査、碑の構想の具体化等、碑建立へと進みはじめた。

この募金には、政府補助金をはじめ、海事関係団体・会社、各界団体・会社の補助金、寄附金および内外航船船、漁船の乗組員、海事関係官庁、団体、会社の役員、各地の小中学生からの個人募金が寄せられた。

昭和48年5月末、その受領額は1億4千万円余に達し、目標を百万円も超過する好成績を挙げることができた。

一方「戦没船員の碑」は、45年3月その構想が成り、同年6月30日起工式を行ない株式会社竹中工務店によつて施工され、翌46年3月18日、碑文石の中にかねて調査完了した、戦没船員60、331人の浄書した名簿を奉安し、3月25日完成した。

昭和56年4月、財団法人日本殉職船員顕彰会の設立にともない、戦没船員に加え、殉職船員の名簿も奉安することになり、令和3年3月31日現在、戦没船員60、643人、殉職船員2,971人、合計63,614人が奉安されている。

## 観音崎の潮騒に 囲まれて

「戦没船員の碑」を、日本の代表的な海の記念碑とするために、東京またはその周辺で、交通の便がよく、しかも景色に勝れ、加えて航路筋から、望見できる場所として、多くの候補地の中から、日本の海の玄関口である観音崎の丘陵の一面が選ばれた。この麓から先端が望まれる白磁の大碑壁は、東京湾に出入する船からは、三角の帆の如く、あるいは白衣の立像の如く、針路につれて刻々に変化してみえる。

この24mの高さを、もつて空に立ち昇り、南を指し示す大碑壁には、戦没船員の御霊に対する祈りと、海洋永遠の平和への願いがこめられており、これと中央壁に抱かれるように祭場があつて、ここで、追悼式などの行事が行なわれる。

この祭場の南端に据えられた水平の碑文石は、遠く望まれる太平洋の水平線と呼応して、海底深く眠る戦没殉職船員の鎮魂を願う気持ち象徴している。表面に「安らかにねむれわが友よ 波静かなれとこしえに」の碑文が刻まれ、その中央に「戦没殉職船員名簿」が奉安されて御霊の安らかな眠りを祈る場所となつている。

(4面につづく)

祭場中央東寄りに立つ群像は、安らかな眠りからさめようとする者、立ち上って遠く海原を指呼する者、それらを慰さめ、あるいは鼓舞する人魚たちと、風と波とから構成されている。これは、大きな犠牲を払った戦争への反省と、永遠の平和への情熱を呼び起そうとするのである。

入口正面の築山に置かれた、帆船練習船進徳丸の錨は、ここが、海にゆかりの記念碑であることを、何よりも端的に物語っている。

そして、これらが竣工した昭和46年5月6日、第1回戦没船員追悼式に皇太子同妃両殿下(現・上皇上皇后両陛下)がご台臨になられ、降りしきる雨の中を、御供花御拝礼された。

この時のことを妃殿下(現・上皇后陛下)がお詠みになられた御歌碑、平成4年に天皇陛下(現・上皇陛下)が、お詠みになられた御製碑を大碑壁に対峙した祭場東側に、また、昭和57年5月7日、昭和天皇皇后両陛下が、御供花御拝礼賜りましたことの記念碑ならびに皇室の行幸啓お成りの碑を、植栽の北東側に建立した。これらをとりにまわっている、桜、椿、珊瑚樹など、観音崎の自然の息吹く丘の上の広揚のすべてをもって、「戦没船員の碑」と呼んでいる。

春爛漫の桜花、秋万山の紅葉。そして四時絶ゆることのない潮騒にかこまれた「戦没船員の碑」は、亡き友への鎮魂と、海洋永遠の平和を祈

る聖地となつて、訪れる人びとに、その心。「安らかにねむれ わが友よ 波静かなれとこしえに」を訴え続けている。

「戦没船員の碑」は、観音崎灯台の西600m、神奈川県立観音崎公園の60mの台地に4,300m<sup>2</sup>を占め、太平洋を一望に収めて建つ。

### 第1回

## 戦没船員追悼式の開催

昭和46年5月6日、第1回戦没船員追悼式が皇太子同妃両殿下(現・上皇上皇后両陛下)のご台臨を賜り、全国から遺族関係者258人が参列、来賓として橋本登美三郎運輸大臣、津田文吾神奈川県知事、長野正義横須賀市長、内田一臣海上幕僚長などが出席し雨天の中で執り行われた。

### 皇太子殿下のおことば (現・上皇陛下)

新しく碑が建立されたのを機に、本日ここで行なわれる戦没船員の追悼式に臨み、さきの大戦中、きわめて困難な任務に従事して、ついに船と運命を共にした幾多の商船、漁船の乗組員の霊に、改めて深く哀悼の意を表するものであります。

かけがえのない肉親を失った遺族の皆さんの、今日までの悲しみと苦

労は、はかり知れないものがあると思います。しかし、なくなつた人々もおそらくは強く望んでおられたように、遺族の皆さんがそれぞれの道を更に強く歩みつづけられることを希望してやみません。

今日、わが国の海運、水産は、かつてより更に世界的規模に発展しています。戦時中、国に殉じて海に没した人を思うにつけ、永遠の海の平和を心から祈念します。

### 会長式辞

財団法人 戦没船員の碑建立会  
会長 足立 正

本日、皇太子同妃両殿下の行啓を仰ぎ、全国から戦没者のご遺族をお招きして、関係各方面の来賓多数が参加のもとに、ここに戦没船員追悼式を執り行うことができますことを心から感謝するものであります。

顧みますれば、昭和12年7月、日中戦争がおこり、これに続く大戦に、船員は広い万里の大海において敵艦の来襲する中を西に東に、また酷寒酷暑の海に長期にわたり心をあわせて勇敢に兵員武器弾薬等の輸送に従事しました。その活躍は目覚ましいものがありました。

思えばこれは、つね日頃つちかわれた海国男児の勇気を遺憾なく発揮したものであると思いますが、武運つたな

く尊い多くの船員の命を失つたことは誠に悲しみにたえません。

ご遺族の皆様におかれましては身に降りかかる戦時の困難に耐えて遠く行方もわからない戦の海に出ていった父や夫わが子弟の武運長久を祈りつつ帰還を待たれたことと思います。然しながらまた会うことのできない人となりました。まことに哀惜の情にたえません。

私共はこの感慨を後世に伝えるため、慰霊顕彰平和の願をこめて戦没船員の碑の建立を企画し、政府をはじめ関係会社、団体並びに国民多数のご支援を得てこの地に碑を建て、謹んで6万331人の名簿を納めました。発起人一同に代わり深く感謝の意を表します。

戦は過ぎて既に20有余年を経ました。此の間海運、水産界は、日に月に発展を続けておりますが、心を新たに、太平洋の波打ち寄せる観音崎の碑の御前において、四海同胞の理想に向い世界の海の平和を祈るものであります。

ここにこの碑に刻むところの言葉  
安らかにねむれ わが友よ  
波静かなれとこしえに

を謹んで海の彼方に沈んだ船員の皆様の御霊に捧げて式辞といたします。

昭和46年5月6日  
代読 副会長 南波佐間 豊



第1回追悼式に御臨席賜った皇太子同妃両殿下  
(現・上皇上皇后両陛下)

追悼のつとば

戦没船員遺族代表  
東京都 木村 静香

想いおこせば昭和16年の初夏、結婚したばかりの夫は山里丸に乗船してアメリカ向け出帆いたしました。往航には、パナマ運河を通過してニューヨークに着きましたが、当時風雲急を告げていた日米関係は、パナマ運河の封鎖となつて、やむなく船は、南米大陸の最南端マゼラン海峡を経由して、11月半年振りに無事帰港いたしました。

そのときの不安と喜びは、今もつて忘れることができません。

それからすぐあの戦争がおこり、夫の乗船していた山里丸は、南方海

域に出動し、1年余りの勤務ののち、18年4月帰国の途中、マラッカ海峡で潜水艦の攻撃をうけて沈没し、18名の戦死者を出しましたが、幸にも主人は護衛艦に救助されて帰国いたしました。

その後再び乗船した高津丸は、19年11月10日、レイテ島オルモック湾において空襲をうけ、多数の兵員、乗組員とともに撃沈されて、二度も死線を脱した夫も、遂に船と運命をともにしたのでございます。

当時埼玉の疎開先におりました私も、この公報をうけましたのは、終戦後の9月、夫の戦死よりほぼ1年ほどたつてからでございました。

そのときの悲しみ、驚きは、覚悟の上のこととは云え、大変な衝撃でございました。

2人の乳呑み児をかかえてのそれからの生活と淋しさは昔語りと云える今が夢のようにございます。

幸いに私は、主人の船会社に職を得ました。そしてこのいくさでほとんどの船を失ったわが国が、驚くほどの力で、今日の大海運・水産国に復興した過程をつぶさに見、その船で働く夫のかつての同僚の人びとの元氣な姿に接することができ、あわただしく戦争に突入した時代の船員家庭のしかもわずかの経験しかもたなかった私は、そこに船員とその家庭の平和な姿をみてこれでよいのだと思ひました。けれども、苦しいと

き、子供の成長をよろこぶとき、夫に報告する私は、遺骨も遺品すらもなかった夫の魂は、どこに在るのかと淋しい想いに追られることがしばしばでした。

本日国民の皆様のご芳情によつて建てられたこの祭場に立つて、遠く水平線を望み、この海が夫の眠るレイテの海につながっていることを思いますとき、20余年を経てはじめて夫と語り合う想いがいたします。

そしてふと、夫はまだ長い航海を続けているのではないかとすら思ひます。

しかし夫は、永久にわが家へ帰つては参りません。

ここに、その名を納められた6万余名の戦没船員のご遺族の方がたは、私と同じ想いの、そして、もつともつと苦しい生活に堪えて来られたことと想いますが、この追悼式に、畏れ多くも、皇太子殿下皇太子妃殿下がご臨席あそばされ、私も全国から集まった遺族とともに、戦没者のためにお祈り下さいますことを、まことに感慨深く思うものでございます。

私も遺族は、世の人の善意に支えられながら立派な家庭を築いて参ります。そしていつまでも平和を祈ります。

どうぞ御霊よ、安らかにお眠りください。折にふれて私どもはこの地を訪れ語らいに参ります。

昭和46年5月6日



高津丸 山下汽船 5,656総トン  
上陸用舟艇母船 (陸軍徴用船)

高津丸は、高射砲や機銃で重装備された軍艦のような外観と21ノットの高速、船腹に上陸用舟艇を満載して、後部扉を開いて飛び出るような構造で、部隊、弾薬、糧秣輸送用の陸軍御用船であった。

第4次レイテ輸送作戦に参加。多号作戦と称した特攻船団で、金華丸、香椎丸、本船で決行された。

昭和19年11月8日、マニラを出港した船団は、9日17時オルモック湾口で米軍の猛爆を受けたが、ようやく湾内に入り兵員の揚陸に夜を徹して努め、10日朝マニラ向け抜錨した。出港して1時間後、再び米空軍の大編隊に襲われ、必死の対空砲火も空しく撃沈。唯一人の生存者を残し全員(104名)殉職を遂げた。

(山下汽船 殉職者追悼録 抜粋)

# 戦没・殉職船員追悼式

「戦没船員の碑」が竣工した昭和46年5月、第1回戦没船員追悼式を挙行してから、毎年5月に式典を実施してきた。その変遷は次のとおり。

## ○主催者

### 戦没船員の碑建立会

第1回（昭和46年5月6日）

第3回（昭和48年5月10日）

### 戦没船員の碑奉賛会

第4回（昭和49年5月15日）

第10回（昭和55年5月15日）

### 日本殉職船員顕彰会

第11回（第1回殉職船員追悼式 昭和56年5月15日）

から、今日まで

## ○式典方式

8月15日終戦記念日に、政府が執り行う「全国戦没者追悼式」に倣う。

## ○式日制定

第4回追悼式（昭和49年5月15日）

から、追悼式の式日を5月15日午前に開催することを定めた。15日が休日の場合は、前日、もしくは前々日とする。

この式日の制定は、昭和56年顕彰会設立時に、これを継承し5月15日を式日と定めた。

## ○式典の呼称と回次

顕彰会設立時、殉職は戦没も包含するとの理解で一致し、「日本殉職

船員顕彰会」の名称を決定した経緯があったので、顕彰会最初の追悼式を「第1回殉職船員追悼式」として執り行った。

昭和60年の追悼式が、昭和46年から数えて15回目にあたるため、第15回追悼式とし、以来回次を通算することにした。

翌61年、第16回追悼式の開催に際して、「戦没船員の碑」建立時の願望であった「戦没船員の慰霊と海洋永遠の平和を祈る心」を銘記するために、向後、本式典を戦没殉職船員追悼式とし、平成10年第28回追悼式から、「戦没・殉職船員追悼式」と改め呼称することにした。

## 能楽「海霊」の奉納

さきの大戦において、七つの海に活躍し、国のためにその一生をささげた船員は実に6万余名にも達した。

能楽「海霊」は、これら戦没船員の霊を慰め、その徳をあきらかにし、あわせて平和を祈るために作られたものである。

その元の歌詞は、明治37年、ときの国際情勢を憂慮され、世界平和を祈念なされた明治天皇の御製「四方の海 皆はらからと思ふ世に 波風の立ちさわぐらむ」を配して平和への指標とした。

昭和46年5月6日、財団法人戦没



船員の碑建立会は、観音崎に戦没船員のために「戦没船員の碑」を建立し、皇太子同妃両殿下（現・上皇上皇后両陛下）の行啓を仰ぎ、戦没船員遺族の代表参加の下に第1回戦没船員追悼式を挙行了した。

この時、奉納された能楽「海霊」は式典時間を制限する必要から、その歌詞を海霊第一の如く簡潔にせざるを得なかった。

しかるところ、行く末の後までも、戦没船員の霊を慰め、世界の平和を祈るためには、元の歌詞の内容を忠実に伝える必要があった。

また、広く国民により容易に謡い続けられることを希望して、宮越賢

治船長が新たに作詞編集を行い、二十五世観世元正の作曲によって、これを海霊第二とし、昭和51年5月15日第6回追悼式で、演能することになった。

戦没者と生死を共にした宮越賢治船長がシテとなり、年ごとの追悼式に奉納されてきた。この能楽は昭和61年12月に宮越船長が亡くなった後も、宗家観世一門によってかわらず奉納されている。

また、昭和46年6月29日、東宮御所において、皇太子同妃両殿下（現・上皇上皇后両陛下）ならびに高松宮同妃両殿下の御前で、平成29年10月11日、皇居・東御苑桃華楽堂において、天皇皇后両陛下（現・上皇上皇后両陛下）は、秋篠宮ご夫妻（現・秋篠宮皇嗣同妃両陛下）、高円宮久子さまとともにご観覧された。

## 戦没船員の碑奉賛会

### 設立

「戦没船員の碑」も完成し、戦没船員追悼式も毎年執り行える体制ができたことから、昭和48年5月「財団法人戦没船員の碑建立会」は解散し、同年6月、「戦没船員の碑奉賛会」が設立され、事務所を財団法人海事広報協会内に置き、今後の追悼式などの実施にあたることになった。

## 日本殉職船員顕彰会 を設立

戦没船員に関わる慰霊・顕彰は、「戦没船員の碑奉賛会」によって行われていたが、戦没船員遺族からの問い合わせや調査依頼への対応、戦没船員名簿の整備など、これら事業の一層の充実が関係者から求められた。

一方、海運関係者からは戦後、海難などで殉職した船員の慰霊や遺族の援護（遺児への援護金給付など）に関わる団体設立の要望が強まってきた。

このような要望に応じて、戦没、海難を問わず、殉職されたすべての



中央に聳えるのは、白磁の大碑壁

船員の慰霊・顕彰を行うとともに、そのご遺族の援護にあたるために、昭和56年4月、「財団法人 日本殉職船員顕彰会」が「戦没船員の碑奉賛会」の事業を引き継ぎ設立された。

顕彰会は、昭和56年5月15日、従来の戦没船員追悼式を承けて、殉職船員追悼式を行い、以後5月15日を式日と定めて、「戦没船員の碑」で、「戦没・殉職船員追悼式」を執り行い、海原遠く眠る船員の御霊を慰めるとともに、戦争と海難のない平和の海を祈ることにした。

「戦没船員の碑」の存在と意義が、広く国民に知れわたり、戦没・殉職船員追悼式が国民的行事として定着して、わが国の海洋精神を高揚し、平和の海があつてこそその海洋立国日本の認識を深めることを願っている。

その後、財団法人から公益財団法人として認定され、平成23年4月1日付で移行登記を行い、継続して事業を推進している。

### 戦没船員名簿の整備 データベース化

戦没船員原票は、「戦没船員の碑建立会」が昭和41年12月から42年2月にかけて、厚生省援護局調査課（陸軍軍属関係）、業務2課（海軍軍属関係）保管の戦没者名簿から戦没船員を選別して、氏名、生年・没年月

日、船名、徴用などの船別等々を記載の限り転写した、パンチカード6万331枚を都道府県別、船別、50音順に保管。昭和47年7月に、この戦没船員原票によって戦没船員名簿（B5判）全10巻を建立会が刊行した。本書を10部作成して、国立国会図書館、厚生省、運輸省、戦没船員東京遺族会、全日本海員組合に寄贈したほか、各都道府県には県別分冊を寄贈した。

「戦没船員の碑」完成時に奉安された戦没船員6万331人の名簿は、その後かなりの漏れや重複があることが分かった。

そのため、海運各社から戦没船員に関する資料の提供をいただき再調査の結果、戦没船員は6万600人となった。

また、平成元年、新たに人名別（6冊）、船名別（6冊）の戦没船員名簿を作成した。

その後も毎年奉安漏れの戦没船員が分かり、令和3年3月末現在で、6万643人となっている。

平成14年には、日本財団の助成により戦没船員名簿や関係資料のデータベース化を行った。

これにより、ご遺族からの調査依頼や問い合わせへの迅速な対応という面で、顕彰会の事業運営の効率化に大きく貢献し、併せて、これまで手作業では困難であった戦没船員に関する資料を検索によって得ること

ができるようになった。

### 殉職船員の調査と奉安

戦後、海難などで殉職された船員の調査は、既に戦後30年以上経過していることから困難な面もあったが、日本船主協会、日本内航海運組合総連合会に依頼して行った。なお、水産分野については調査に取り組むことができなかった。

この調査以降は、毎年殉職船員の調査を行い（水産分野は平成13年より）、ご遺族の同意を得ながら奉安している。

現在、殉職船員は外航917人、内航884人、旅客69人、港湾40人、水産1,061人が「戦没船員の碑」に奉安されている。



練習船・銀河丸「戦没船員船上慰霊式」

## 遺児援護金制度の発足

顕彰会設立当時は、遺族援護事業としては、身の上相談的なことしかできなかった。漁船海難遺児育英会のような、具体的な遺族援護を海難などで殉職した商船船員遺児に対しても行うべきではないかとの要望に応え、日本海事財団から、このための基金2億円の助成を受けて、その果実による援護事業として、昭和59年1月、殉職船員の遺児に義務教育終了まで援護金(月額3,000円)を支給する内容を骨子とした遺児援護金制度が発足した。

現在、この制度は、遺児が生まれてから高校を卒業するまで援護金月額8,000円を支給、小中高入学時にそれぞれ、入学祝い金を支給している。(漁船員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会で実施している。)制度発足から令和2年度末までの延べ支給対象遺児は、2,015人となっている。

## 戦時徴用船遭難の

### 記録画展

元大阪商船嘱託画家・大久保一郎氏が描いた貴重な戦時徴用船遭難の記録画が、昭和57年大阪の大ビル地下倉庫で発見された。

この記録画は、戦況が悪化し始めた昭和17年、大阪商船・岡田社長から「次々に沈められる社船の最期を記録にとどめるように」と言われた大久保画伯が、生還した船員の証言から、沈没する船の様子や船員の遭難状況を克明に聞き取って忠実に描いた。その数80枚といわれているが、当時の社会情勢からは、負け戦を暗示するような絵を描くことなどできない状況下で、社内の一室で密かに制作された。

発見された記録画は、台風などの影響で汚泥に埋没し、損傷の激しいものは処分されたといわれているが、黒く汚れて痛みの激しかった記録画は、絵画修復家・黒江光彦氏によって修復され、歴史の証人として、戦没船員の鎮魂碑として、37枚の記録画がよみがえった。

発足間もない顕彰会は、この記録画を遺族はもとより広く国民にご高覧いただくことが、戦没船員の顕彰とあわせ、戦争の悲惨さを実感し、平和の尊さを再認識していただくことと、戦没船員の御霊の鎮魂と海洋永遠の平和を祈念して、大阪商船三井船舶(株)(現・(株)商船三井)の多大なご協力のもと、第1回「戦時徴用船遭難の記録画展」を、東京三越本店で開催した。約9,000人が来場した。

第1回記録画展を皮切りに、以後、毎年全国の主要都市で開催。令和2



宇都宮市での記録画展

年、第46回記録画展を宇都宮市で開催した。これまでの来場者数は特別展と合わせ約15万人。

また、この記録画展を通して、多くの戦没船員ご遺族に、戦没船員の遭難時の情報、「戦没船員の碑」の建立や顕彰会によって執り行われている追悼式などをお知らせすることができている。

## 広報誌「潮騒」の発行

ご遺族や慰霊・顕彰事業を支えていただいている多くの関係者と顕彰会を結ぶ「絆」として、平成7年広報誌「潮騒」の発行を始めた。

以後、内容の充実に努め、現在、1月に「新年号」、8月に「夏号」の年2回発行している。昨年は新型コロナウイルス感染症

拡大の影響により、8月の「夏号」は、やむなく休刊とした。

## 戦没遺族等への周知

あの大战が終わって肉親を亡くされた戦没船員の遺族関係者は、乗船船の遭難状況や肉親の最期を知る手がかりを求めていると努力されている。

一方、戦没船員の慰霊・顕彰事業を行ってきた顕彰会(前身の碑建立会・奉賛会を含む)は、遺族の住居が十分に把握できなかったことから、「戦没船員の碑」の建立や毎年の追悼式などをお知らせすることが出来なかった。

そのようなことから今もお、多くの遺族関係者が、「戦没船員の碑」や顕彰会によって執り行われている追悼式を知らない。あわせて顕彰会には、戦没船員の名簿・戦没船(主として商船)の遭難状況などの資料や文献があるが、遺族関係者にお知らせ出来ずにいる。

顕彰会では、前述のデータベース化とあわせホームページの開設、全国各地での記録画展、マスコミなどへの対応等々によってその周知に努めている。

ご遺族は、子供、兄弟から孫、甥、姪に世代交代しており、これからもなお一層の努力が求められている。



## 戦時徴用船画の奉納 「1000の船団帰らず」

「ヒ86船団帰らず」佐藤幹児画伯が描いた240号油彩画および大久保一郎画伯遺作複製画2点を靖国神社遊就館に奉納。

靖国神社には、さきの大戦で戦没した船員が合祀されている。神社の宝物館・遊就館には、船員関係の記念品は皆無だった。

昭和61年、遊就館の修復工事が完成し、明治以来の記念品が展示されることになったので、船員の活躍を伝える絵画の展示を実現させたいもの、戦時中に船団護衛にあたった海防艦乗組み生存者の団体、「海防艦顕彰会」と協力して、戦う船団の絵を奉納することになった。

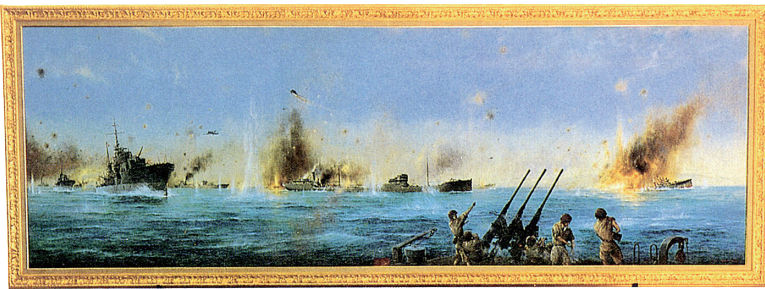
生存者の証言、資料などを取りまとめた構想をもとに、海洋画家・佐藤幹児画伯が制作にあたり、240号の大作となって完成。昭和61年10月13日、靖国神社に奉納した。

この絵は戦争末期、南方から石油、ゴムなどの重要物資を満載して仏印（フランス領インドシナ。現在のベトナム・カンボジア・ラオス。）南東岸沿いに内地向け航行中の「ヒ86船団」が昭和20年1月12日朝から昼過ぎまで、半日に及ぶ敵機の波状攻撃を受けて全滅した苦闘のさまを

描いたもので、この絵は、遊就館正面入口から順路を右手の第1室正面に展示されている。

作者の佐藤画伯は、海上勤務の傍ら絵筆を執られた海洋画家で、本画の制作時に病中であつたのを、おして執筆、3ヶ月で描きあげたが、翌年7月1日に亡くなられ、佐藤画伯の最後の遺作となった。

さらに、大久保一郎画伯の遺作のうち、「ぶら志る丸の最後」「沈みゆく船に別れを告げる船員」の2点の複製画をあわせ奉納し、同室に展示されている。



靖国神社奉納 240号油絵 「ヒ86船団」帰らず  
昭和20年1月12日、印度支那半島東岸に於いて、「ヒ86船団」（タンカー4隻、貨物船6隻）、護衛艦（第101戦隊一香椎、海防艦5隻）は、帰国途次に米機動部隊の攻撃を受け、海防艦3隻を残し全滅した。

## 終戦記念日 献花式

終戦記念日（8月15日）に観音崎公園「戦没船員の碑」で献花式を行います。ご案内するのは、当会役員など約60人ですが、どなたでも参列することが出来ます。参列される場合は、バス等の関係から顕彰会に必ずご連絡ください。

▽午前11時20分観音崎京急ホテル集合▽11時30分マイク口バスで戦没船員の碑へ▽同50分慰霊碑の献花台前に整列▽「全国戦没者追悼式」のラジオ実況放送に合わせて総理大臣式辞▽12時黙とう、戦没・殉職船員の御霊を追悼し、海洋永遠の平和を誓います。▽同02分天皇陛下のお言葉を聞き、閉式。マイク口バスで観音崎京急ホテルへ戻って昼食・解散となります。

服装は、白ワイシャツに黒ネクタイの軽装でお願いします。例年、当会の役職員のほか、海事関係者や当会役員経験者など40人余が参列し哀悼の誠を捧げます。



## お知らせ

公益財団法人日本殉職船員顕彰会  
電話 03・3234・0662

皇室と戦没・殉職船員



○昭和55年5月 第10回追悼式  
高松宮殿下ご臨席  
○昭和57年5月  
天皇皇后両陛下下行幸啓ご供花

(昭和天皇皇后両陛下)  
○平成2年5月 第20回追悼式  
皇太子殿下行啓(現・天皇陛下)  
○平成3年5月 第21回追悼式  
皇后陛下(現・上皇后陛下)  
御歌碑除幕式

皇太子殿下行啓(現・天皇陛下)  
○平成4年1月  
天皇皇后両陛下下行幸啓ご供花  
(現・上皇上皇后両陛下)  
○平成6年5月 第24回追悼式  
天皇陛下(現・上皇陛下)  
御製碑除幕式

皇太子同妃両殿下行啓  
(現・天皇皇后両陛下)  
○平成7年9月  
天皇皇后両陛下下行幸啓ご供花  
(現・上皇上皇后両陛下)  
清子内親王殿下ご供花

(現・黒田清子さま)  
○平成12年5月 第30回追悼式  
天皇皇后両陛下下行幸啓  
(現・上皇上皇后両陛下)  
○平成17年7月 終戦60周年記念  
戦没殉職船員遺族の集い  
天皇皇后両陛下下行幸啓

(現・上皇上皇后両陛下)  
○平成17年10月  
天皇皇后両陛下下行幸啓ご供花  
(現・上皇上皇后両陛下)

○昭和53年5月  
高松宮同妃両殿下ご供花



ご遺族にお声をかけられる天皇皇后両陛下  
(現・上皇上皇后両陛下)

皇后陛下(現・上皇后陛下)が、昭和46年5月、第1回追悼式でお詠みになられた御歌碑の除幕式と第21回追悼式が挙行された。

平成6年5月15日、皇太子同妃両殿下(現・天皇皇后両陛下)のご臨席を賜り、平成4年に天皇陛下(現・上皇陛下)が、お詠みになられた御製碑の除幕式と第24回追悼式が、また、平成22年6月4日には、皇室の方がたが「戦没船員の碑」にお成になられた記念碑の行幸啓お成りの碑の除幕式を執り行つた。

天皇陛下御製  
(現・上皇陛下)

戦日いくさひに逝いきし船人を  
悼なげむ碑の彼方に見ゆる  
海平うみらけし  
(平成4年)

皇后陛下御製  
(現・上皇后陛下)

かく濡ぬれて遺族らと祈る  
更にさらにひたぬれて  
君きみら逝いき給たまひしか  
(昭和46年)

## 皆様のご厚情に感謝申し上げます

令和2年12月1日以降、令和3年6月30日までの間に、次の方々に新たに賛助会員及び協賛会員として加入いただきました。  
また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。  
本会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。

会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■賛助会員には、「法人」と「個人」があり、年会費は◎法人賛助会費＝

100万円、◎個人賛助会費＝10万円をお願いしています。

■協賛会員は「個人」にお願いしているもので、年会費は1000円です。

### 新たな賛助会員

○田形加代子様（静岡県焼津市）

### 一般寄付金（順不同）

- 角元 利彦様（千葉県八千代市）
- 田子のぶ子様（長野県上田市）
- 藤井 栄子様（埼玉県上尾市）
- 猪股 貞雄様（東京都清瀬市）
- 伊藤 喜市様（神奈川県横浜市）
- 前田 俊文様（三重県志摩市）

### 追悼式献花料（順不同）

- 川畑 實恵様（兵庫県明石市）
- 水野 孝子様（新潟県新潟市）
- 後藤美津子様（神奈川県横浜市）
- 今田小夜子様（埼玉県川口市）
- 守田 忠様（宮城県名取市）
- 津田 芳子様（兵庫県揖保郡）
- 山藤 浩子様（広島県広島市）

○横須賀市東部漁業協同組合様（神奈川県横須賀市）

- 宮越 和子様（千葉県佐倉市）
- 米山 隆昭様（東京都北区）
- 荒川 博様（東京都三鷹市）
- 川田レイ子様（兵庫県西脇市）

### 遺族援護寄付金（順不同）

- 加賀城福男様（香川県仲多度郡）
- 関 洋一郎様（福岡県福岡市）
- 中村 順子様（千葉県船橋市）
- 岡 靖晃様（神奈川県横須賀市）
- 齋藤 延子様（埼玉県上尾市）
- 長澤芙美子様（群馬県前橋市）

### 戦時徴用船の最期

### 大久保一郎遺作展寄付金（順不同）

- 重田 育輝様（大阪府羽曳野市）

## 寄付金に対する

## 税制上の優遇措置について（お知らせ）

当会は、平成23年4月1日に「公益財団法人」に認定されたことにより特定公益増進法人に該当することになりました。さらに、平成23年10月27日（平成28年10月17日更新）に「税額控除対象法人」の証明を受けたことから、**当会に対する寄付金は、税制上の優遇制度が認められ、確定申告を行うことにより、「所得控除」もしくは「税額控除」が受けられます。**なお、**ここでいう寄付金は、賛助会費・協賛会費・追悼式の献花料・終戦記念日の献花料および寄付金をさします。**

所得税の軽減につながるためぜひご活用ください。  
「所得控除」「税額控除」を受ける際には、当会が発行する「領収証」「公益認定書(写)」「税額控除に係る証明書(写)」が必要になります。例年11月にお送りしていますので大切に保管してください。

### ①個人の方の寄付の場合

#### 「所得控除」

所得税率が高い高所得者の方は減税効果が大きくなります。

寄付金額

上限は年間所得の40%

−2千円＝

所得控除額

#### 「税額控除」

小口の寄付にも減税効果が大きくなります。

寄付金額−2千円

上限は年間所得の40%

×40%＝

税額控除額

上限は所得税額の25%

「所得控除」と「税額控除」については、寄付者の所得額や寄付金額によって、選択する控除方法により控除額が変わります。詳しくは確定申告の際に税務署にお尋ねください。

### ②法人（民間企業等）の寄付の場合

一般の寄付金の損金算入限度額とは別枠で、損金算入ができません。詳しくは、税務署、税理士にお問い合わせください。

会長が交代しました

工藤さんから武藤さんへ



工藤泰三前会長



武藤光一新会長

令和3年6月29日開催した第27回(定時)評議員会で、理事・監事の任期満了により、理事15人(新任3人、再任12人)、監事2人(再任2人)の改選が行われ、審議のうえ選任を決議した。

30日、選任された理事・監事によって開催した、第39回(臨時)理事会で、代表理事・会長、副会長、業務執行理事の選定について審議を行った。

代表理事・会長には、武藤光一さん(商船三井特別顧問)、副会長に

池田潤一郎さん(日本船主協会会長)、森田保己さん(全日本海員組合組合長)、栗林宏吉さん(日本内航海運総連合会会長)が選定された。退任した理事は、工藤泰三さん(前代表理事・会長、日本郵船特別顧問)、内藤忠顕さん(日本船主協会前会長)、伊藤國男さん(日本海事広報協会前理事長)。

新たに就任した理事は、池田潤一郎さん(日本船主協会会長)、尾澤克之さん(日本海事広報協会理事長)、村上英三さん(川崎汽船特別顧問)。選任された理事・監事の方々の任期(2年)は、令和5年(2023)6月開催予定の定時評議員最終結時までとなる。

また、評議員の辞任に伴い、石川尚さんから細川淳さん(日本船主協会常務理事)、小林憲さんから木上正士さん(大日本水産会参与)、須田弘次さんから浅沼卓さん(日本旅客船協会常務理事)にそれぞれ交代した。



知られざる民間船舶の悲劇  
第47回 戦時徴用船遭難の記録画展

静岡県静岡市で開催

静岡市民文化会館4階B展示室

8/19~8/29

入場無料

会期

- 令和3年8月19日(土)から8月29日(日)まで
- 開館時間は、10時00分から18時00分まで
- 初日の8月19日(土)は、13時00分開場
- 最終日の8月29日(日)は16時00分に閉場
- 8月23日(月)は休館日

会場

静岡市民文化会館4階 B展示室  
静岡県静岡市葵区駿府町2-90

主催

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会



魚雷攻撃により棒立ちとなって沈没する「ぶら志る丸」

\*新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について  
政府・静岡市のガイドラインに沿って対策を行います。ご協力をお願いします。